

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム ぬくもりの家		
所在地	宇部市大字木田字中山田40-20		
電話番号	0837-62-5007	事業所番号	3570201073
法人名	医療法人社団泉仁会		

訪問調査日	平成 20 年 8 月 26 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 20 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人 非常勤 人 (常勤換算 8 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 34,100 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	1日 1,150円			
その他の費用	月額 15,000 円			
	内訳 共益費 1日500円			

(4) 利用者の概要 (7月23日現在)

利用者数	8 名		男性	名	女性	8 名
	要介護1	3	要介護4	1		
	要介護2	2	要介護5	1		
	要介護3	1	要支援2	0		
年齢	平均 90.8 歳	最低 76 歳	最高 99 歳			

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 宇部第一病院 歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

職員体制は常勤8名で全員が介護福祉士の資格を持ち、質の高いサービス提供に努めています。研修は法人はじめ管理者の積極的な姿勢により、職員の学習意欲も高く、介護支援専門員の資格取得を数人が目指すなど、熱意が伺えます。食事は食の大切さを充分認識され、三食とも楽しみながら作り、和やかな明るい雰囲気の中で職員と共に味わっています。また、利用者本位で、個人を尊重した丁寧な言葉掛けがされ、相互のコミュニケーションがよく取れています。

(特徴的な取組等)

法人の併設施設や関連施設が一つの自治区であり、散歩や外出時に利用者間の日常的相互交流ができるほか、保育園児との芋掘りを恒例行事として一緒に行っています。また、地域の運動会やお祭りに参加し、ホーム内へは、地域のボランティアによる掃除や交流を多く計画し、「地域住民との交流」に努力しています。グループホームという特徴を充分認識し、法人内での職員の異動はしない方針で、利用者との馴染みの関係がうまく取れています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

全員が評価の意義を理解し、改善事項は話し合いを重ねながら取り組んでおり、苦情に関しては手順、外部機関も明示されています。運営推進会議のメンバーの拡大は、現在地域社協と交渉中です。緊急時の対応では、ミーティングで応急手当の学習をしています。

(今回の自己評価の取組状況)

自己評価の意義を話し合い、職員全員で取り組んでそれぞれが2週間後に提出、会議で検討し全員の意見を取り入れて管理者が記入しています。年間の反省の機会になり、有意義であったと感じています。

(運営推進会議の取組状況)

定期的に行われ、メンバーは市介護保険課、社会福祉協議会、地区総合対策協議会、老人保健施設、家族、利用者で、生活の様子や評価結果を報告し、意見交換を行っています。

(家族との連携状況)

毎月の金銭出納状況と共に、ホーム便りで健康状態や生活ぶりを伝えており、担当者の個人通信欄も設けています。面会時や年1回の家族会で生活状況を伝えたり、家族の思いや意見を聞いて必要時には電話連絡もしています。

(地域との連携状況)

関連施設や併設施設が一つの自治区であり、散歩や外出時には挨拶や声かけをしています。地域の行事、どんど焼き、運動会、夏祭りに参加し、ホームへは中学生のボランティアが清掃活動をしたり、保育園児と一緒に芋掘りなどして楽しく交流をしています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期 待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>当初からの理念「利用者の人格、意思を尊重し、ぬくもりのある家庭的な雰囲気の中で安心した暮らしを提供する」に沿ったサービスを継続しているが、地域密着型サービスとして具体的な検討はまだである。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての理念の検討</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>常に理念を念頭にミーティングで唱和し、理念に添った支援に取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治区内では毎日の散歩や外出時に挨拶や声かけをしている。地域の夏祭り、運動会、どんど焼きなどにはバスで出かけて地域の人々と交流しており、ホーム内の恒例行事として、中学生のボランティアの清掃活動や保育園児との芋掘りがある。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義については充分理解しており、自己評価は全員で取り組んでいる。外部評価の結果は、運営推進会議で報告し全員で改善に向けて検討している。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>定期的に行われ、メンバーは市介護保険課、社会福祉協議会、地区総合対策協議会、老人保健施設、家族、利用者で、暮らしぶりや評価結果を報告し、意見交換をしている。</p>	<p>・メンバーの拡大と会議の活発化</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>課題については積極的に介護保険課や地域包括支援センターと連絡を取り、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月金銭出納状況と共にホーム便りで健康状態や暮らしぶりを伝えており、担当者の個別便りの欄も設けている。面会時や年1回の家族会では個々の情報を伝えたり、必要時電話でも連絡をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や家族会で意見を聞いたり、アンケートをとって思いや苦情などを聞く機会を設けており、運営に反映させている。相談や苦情の受け付け窓口、第三者委員、外部機関を明示し、処理手続きを明確にしている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事では職員数を増員するなど、時間外やボランティア参加の職員で勤務調整をしている。夜間帯では急変時には併設病院に応援を依頼している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係を保つために、職員の異動を最小限に抑えて(開設以来4名)、できるだけ担当も替えず利用者へのダメージを防いでいる。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人での年間研修プログラムがあり、新人研修、現任研修のほか災害対応、医療安全、感染症等幅広く実施している。内外の研修にも積極的に参加し、ミーティングで復命している。新人には主任職員が付き、働きながらのトレーニングを実施している。介護支援専門員等の資格取得にも意欲的である。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県及び地域のグループホーム連絡会に加入し、年4回、2~4人の職員が勉強会や交流会に参加し、サービスの質の向上に役立てている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	利用前に雰囲気慣れるために、一緒にお茶を飲むなど2~3時間の体験利用を行っている。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	常に一方的な介護にならないよう配慮しながら、一人ひとりの個性を大切に、教え教えられる関係を築いている。	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	利用者の生活歴や日々の言動、家族の情報等から意向の把握に努め、カンファレンスで共有し支援している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	ケアプランは家族や利用者の意見、希望を聞き職員全員で検討して作成している。それぞれの意見やアイデアは十分に反映している。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	基本的には6ヶ月の見直しであるが、ミーティングで月1回計画に対する評価を行い、変化があれば随時見直している。カンファレンスには家族も参加し、十分に話し合いをして新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	医療機関への受診や往診、訪問看護の利用、地域の美容室への送迎、外出の支援など多機能性を活かした柔軟な対応をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に充分話し合い、希望を聞き、かかりつけ医の場合は送迎や情報の伝え方などを取り決めており、適切な医療が受けられるように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した利用者のケアについては、指針を作成し家族や医師、職員で繰り返し話し合いをしながら支援している。終末期については全て病院への入院で実施していない。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーの確保については充分認識しており、特に禁止や押さえつける言葉に注意を払っている。記録類は事務室に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴など大まかに時間は決まっているが、一人ひとりのペースを大事にし、1日の過ごし方は自由である。朝のバイタルチェック時にどうしたいかを把握し、利用者の希望に添った支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は食事の大切さを充分認識し、三食ともにホーム内で調理しており、利用者の力量を応じて、準備、配膳、後片付けなど一緒に行い、和やかな食事風景であった。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は2日毎となっているが、本人の希望やタイミングに合わせて支援している。仲の良い人が一緒に入ったり、その時に入浴を希望しない人には清拭やシャワーなども適宜行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の生活歴や力量を把握して、それぞれの楽しみごとと編み物、貼り絵、園芸などの場面づくりや掃除、調理、後片づけ等の活躍できる生活を支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望に添い、毎日のごみ捨てを兼ねた散歩、近くのお地藏様参りのほか、外食、初詣、花見、お祭りなど季節の感じられる場所に出かけ、買い物も楽しみの一つとなっている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人が年1回研修を行っており、特に言葉かけに注意して抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関には鍵を掛けていない。ドアにセンサーをつけているが、利用者の状況により現在は活用していない。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	消防署による火災・避難訓練や緊急時の対応に関する研修を受け、個々の状態を把握して、日常的に話し合い、事故防止に取り組んでいる。事故記録やヒヤリはっと報告書の内容は全員で検討し、事故防止委員会へ報告している。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当のマニュアルを見やすいところにおき、会議で口頭での勉強会は実施しているが、実地訓練は行っていない。	・日常的訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は法人全体で年2回、ホーム独自で年1回夜間想定訓練も実施している。地域との連携体制は法人でとっている。避難場所、連絡網も整備し、水や食料等の備蓄もある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は薬効を含めての情報を理解しており、服薬手帳を作り、手渡しして確認している。症状の変化に注意しながら、必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後マンツーマンで歯磨きの支援をしている。歯ブラシは昼食後、義歯は週2回ポリデントで洗浄し、夜間は事務所で保管している。入居時口腔内をチェックし、必要に応じて歯科医師の往診もある。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスやカロリーは、老人保健施設の管理栄養士がチェックし、食事量、水分量は1日の摂取量を記録している。一人ひとりの状態や習慣を把握し、おかゆや刻み食の対応もしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症防止マニュアルに沿って予防接種、手洗い、うがい、手すりの消毒など時候に合った目標を決めて実行している。年1回は研修を実施して感染予防に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関やホール、居間には季節の花や緑の植物が沢山置かれ、壁には手作りカレンダーや作品を展示し、広々とした明るい空間である。外は緑の山とウッドデッキで季節を感じながら居心地よく過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベット以外はそれぞれ馴染みの家具を持ち込み、写真や花、人形などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームぬくもりの家
所在地	宇部市大字木田中山田40-20
電話番号	0836-62-5007
開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

朝・昼・夕食とも、利用者様と一緒に、調理・盛りつけ・配膳まで行っています、開所当時はお手伝いされていた方も、加齢、ADL低下と共に徐々に手伝われなくなりますがその方の、発揮出来る力の援助はさせていただいています。恵まれた自然環境の中で、職員8名により、ゆったりと落ち着いた毎日を送っていただけるように、お一人お一人の好み、動きに合わせたケアをしています。又、季節を感じてもらえるように、自室のカレンダーはご自分で作成していただいたり、桜のお花見にはじまり、菖蒲・藤・つつじ等を観賞し、変化を楽しんでもらっています。毎日のバイタルチェックや、排泄表にての排尿・排便の観察による健康状態のチェックを行い、併設病院・訪問看護とも連携をとりながら、病の早期発見、健康維持に努めています。

【実施ユニットの概要】 (7月23日現在)

ユニットの名称	ぬくもりの家			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	8 名	男性	名	女性 8 名
	要介護1	3	要介護4	1
	要介護2	2	要介護5	1
	要介護3	1	要支援2	
年齢構成	平均 90.8 歳	最低 76 歳	最高 99 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員で取り組むことの意義を話し合い、7月初めに配布し、中旬までに提出するようにした。その後、読み合わせをおこない、全員の意見を取り入れることができた。
評価確定日	平成 20 年 7 月 23 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	利用者様の人格・意思を尊重し安心して暮らして頂ける理念としている。	
2	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に理念を頭におき理念に添った支援をしている。	
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	ミーティング時に運営理念を唱和し明確にしている。	
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	全員で話し合いを重ねより良い支援ができるように取り組んでいる。	
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	毎月発行しているホーム便りに「理念」を掲載し、家族や地域の人々に理解してもらえるように努めている。	
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	ほとんど毎日散歩に出掛け気軽に声をかけ合っている。	
7	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近隣の行事（どんど焼き・運動会・夏越祭り等）に参加し、地元の人々との交流に努めている。	
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	関連施設では行っているが、GH独自ではしていない。	○ 今後話し合いを進めていき、取り組めることがあれば実行したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員自己評価・外部評価の意義を十分に理解しており、改善事項があれば話し合いを重ね改善に向けて取り組んでいる。	
10	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議の中で、日々の生活の様子や評価結果を通して話し合いを行い、意見を聞きサービスに活かしている。	
11	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	相談事があれば積極的に市町担当者と連絡を取り、サービス向上に向けて取り組んでいる。	
12	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修があれば参加したりして学んでいる。 以前2名活用されていたが現在はおられない。	
13	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティング等を通して高齢者虐待防止関連法について話し合い、防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書をともに丁寧に説明いつでも見られるように提示・設置している。 契約・解約時には十分に説明をし、納得してもらっている。	
15	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎朝スタッフが一人ひとりに声をかけ、表情などから変化を察知し、気持ちをくみ取りながら不満や意見を日常に取り入れている。 訪問看護にも声を掛けてもらっている。	
16	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月のホーム便りに健康状態・生活状況をお知らせしている。 金銭出納も毎月送付し、面会時にも出納帳の確認をしサインをもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>○<u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18	<p>○<u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>○<u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20	<p>○<u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21	<p>○<u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22	<p>○<u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p>○<u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24	<p>○<u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○	休憩時間の工夫必要。
26	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
27	<p>○職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<p>○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
29	<p>○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
30	<p>○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
31	<p>○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	○	地域との交流の幅をもっとひろめていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
34	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		
35	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	○	自分らしさを失わないように、又馴染みの関係が途切れないようにこちらも積極的に支援していく。
36	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		
37	<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
38	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		
39	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		
40	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者や職員全員でケアプランを検討し家族にも意見を聞きケアプランを作成している。	
42	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ミーティングやケアカンファレンスを行い、その都度検討している。	
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りや受診記録のノートなどで情報を共有している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	多機能性は環境が十分整っていないが出張美容院など訪問サービスを利用し対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア等を通じて支援している。	○ 今後地域資源との協働を考えていきたい。
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	家族の支援、研修の受け入れも依頼があれば受け入れていきたい。	○ 来年度より学生の研修を受け入れる。
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	日頃より他部署との連携、他のサービス事業所と連携している。 他のサービスへの利用は行っていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56	○ <u>プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや記録等の個人情報の取扱には注意を払っている。	
57	○ <u>利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が今何をしたいかを表現できるようにゆったりした態度で支援している。	
58	○ <u>“できる力”を大切にされた家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	家事については出来る力を大事にし、職員と一緒にやっている。またショッピング等好みの物を買えるように支援している。	
59	○ <u>日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事・入浴等の大まかな時間は決まっているが、臥床したりテレビを見たり居室で会話したりと自由に過ごせる時間がある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ <u>身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝は整容がきちんとできるよう支援をしている。また出張美容・ボランティアカットなどで身だしなみには気を遣い個別外出で好きな美容院へ行く等支援に努めている。	
61	○ <u>食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材を使い季節感を出し、食事が一番楽しみと言って頂けるよう支援をしている。利用者と職員で準備から片付けを一緒にを行い役割を持ってもらっている。	
62	○ <u>本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	献立は一週間単位でいろいろな物を組んでおり、おやつ時には好みの物が食べられるように支援している。お酒やたばこは現在飲まれる人がいない。	
63	○ <u>気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表に記録をし排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。便秘や下痢等には注意し、気持ちよく排泄できるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p>○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
65	<p>○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p>○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	<p>○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
74	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	○	勉強会を行いこれからも取り組んでいきたい。
75	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	○	定期的に取り組んでいきたい。
80	<p>○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>		
87	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88	<p>○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p>○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関入り口に名前を表示し、花を植えるなど親しみやすくしている。建物周囲にもわかりやすくなる名前を表示している。	
91	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関前には季節の花を利用者と共に植え、廊下にはその月の行事を写真におさめ展示し、居間には花を活けどこからも眺められるようにしている。毎月月ごとのカレンダー・季節の飾りものを展示している。	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関より入った処へ籐椅子をおき、テレビを視る場所には皆がゆったり座れるソファをおいてあり、一人ひとりが自分にあった場所が自然にできている。	
93	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド以外は入居時に家族と話しあい、今まで本人の使い慣れた物や好みの物をいれてもらう様に工夫している。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日中リビング台所は常に換気を行い、天気の良い日は居室の窓を開けている。温度調節は利用者の状況を見てこまめに行っている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	建物内部全体に手すりをもうけ、トイレドアも両開きになっている。台所廻りと食事テーブルが近いので食後自ら下膳している。台所が広いので利用者と共に食事準備ができる。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	場所の表示・居室前の名前・混乱のないように一人ひとりあった工夫を行っている。	
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前にベンチを置きベランダにはお茶を飲んだりする椅子と机を置いている。ベランダに花を植え利用者と共に水やりや植えかえを行っている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない